



日本包装専士会は（公社）日本包装技術協会が主催するTOKYO PACK 2024（昨年10月23日～25日東京ビックサイトにて開催）に参加し、パネル展示や学生とのコラボセミナーを行いました。本号では報告の第3回として、「包装の未来予測」の一部をご紹介します。

### 専士会の活動 ～未来包装研究委員会～

VUCAの時代に入り、包装が配慮すべき範囲は大きく変化しています。多様化する生活者の価値観や行動、少子高齢化と人口増加が同時並行する世界、瞬時に広がる情報やマネー、環境対応と経済性、そしてパンデミック。複雑化、変動化する現代において、共通の課題である「包装の未来」の予測は、過去・現在の延長としてではなく、科学的な根拠を基に、「新しいあるべき未来社会」の姿を想像し、共有・共感から企業の垣根を超えて、包装の望ましい姿をデザインするアプローチが必要と考えます。

未来包装研究委員会での2024年の議論では、「あるべき未来」とは「Well-being：健やかで豊かな生活」であるとし、様々な場面で起こる二律背反を同時解決する許容性(Acceptableな関係)が包装にも求められると帰着しました。「地球と人類」「環境と経済」に調和が取れ、地域や都市の「ネット・ゼロ」に貢献できるパッケージに変えていく。そのためには、「プラスチック」も「紙」もリサイクル可能な設計であること、地域や都市が循環共生圏を形成しながら回収・選別を高度化すること、包装の持つ役割について市民との対話を重ねることが必須と考えました。これらの推進にはデジタル技術、センシング技術、AIなどの活用が期待されます。

そのようなエッセンスを取り纏め、専士会ブースにて、パネル展示を行いました。

